

## 漢文句法「假定」確認テスト（如・若・苟・縦） | 定期テスト対策 | 誰でも古典塾 解答・解説

---

問1 もし（～ば）。「如」は「もし」と読み、「如～セバ」で「もし～ならば」と順接の假定を表す。

問2 もし我死せば、子之を継げ。（もし私が死んだら、おまえがこれを継げ。）

問3 もし（～ば）。「若」も「もし」と読み、「如」と同じく順接の假定を作る。

問4 もし雨が降ったら、行かない。

問5 いやしくも志有らば、事竟に成る。（少しでも志があるならば、物事は最後には成就する。）

問6 もし（少しでも）過ちがなければ、何を改めようか（いや、改めるものはない）。

問7 たとひ千万人と雖も、吾往かん。（たとえ相手が千万人であっても、私は進んで行こう。）

問8 たとえ彼が来ても、恐れてはならない。

問9 たとひ（～とも）。「縦令」も二字で「たとひ」と読み、「縦」と同じく逆接の假定を作る。

問10 たとえ貧しくても、学問をやめない。

問11 もし私が（金持ちに）なったら、必ず人を救おう。

問12 なかりせば。「微～」は「～なかりせば」と読み、「もし～がなかったら」と事実と反する假定（反実仮想）を表す。

問13 管仲微かりせば。（もし管仲がいなかったら。）※「微」を先に訓読しても、訳のうえでは「管仲がいなかったら」となる。

問14 イ（反実仮想＝事実と反する假定）。実際には管仲がいたのに「もし管仲がいなかったら」と假定しているので、反実仮想にあたる。

問15 もし好機を逃したら、悔やんでも取り返しがつかない。

問16 かりにも誠実さ（信義）がありさえすれば、（遠くからでも人がやって来る）。※「苟」の「少しでも・かりにも」という強調を生かして訳す。

問17 いやしくも（～ば）。「苟」は「いやしくも」と読み、「かりにも・少しでも～ならば」という順接の假定を表す。

問18 たとひ（～とも）。「縦」は「たとひ」と読み、「縦～トモ」で「たとえ～でも」と逆接の假定を表す。

問19 イ（もし～ならば＝假定）。「使・令」は使役「～させる」のほか、文脈により「もし～だったら」という假定の意でも用いられる。⑧⑨はいずれも假定。

**問20** 「如・若・苟（もし～ば／いやしくも～ば）」は、条件が成り立てばそのまま順当な結果が続く**順接**の仮定である。これに対し「縦（たとひ～とも）」は、条件が成り立っても予想に反する結果になる、または条件をしりぞけて結論を述べる**逆接**の仮定である。前者は「～ば（～ならば）」、後者は「～とも（～ても）」で結ぶ点異なる。

**問21** (1)順接の仮定（もし～ば） (2)逆接の仮定（たとえ～ても） (3)順接の仮定（もし～ば）

**問22** ば（未然形＋「ば」の形）。仮定の条件を示す部分は、訓読のうえで動詞・形容詞などを未然形にして「～ば」（逆接の場合は「～とも」）で結ぶ。問の指示どおり一語で答えるなら「ば」。